【SR-7　評価シート　エビデンス総体】

診療ガイドライン	CQ10：EVによる皮膚障害・炎症の悪化・進行を防ぐために局所療法として冷罨法（冷却）または温罨法（加温）は推奨されるか
対象	がん薬物療法を受ける患者 抗がん剤によるEVが起こった患者
介入	冷罨法（冷却）する、または温罨法（加温）する
対照	冷罨法（冷却）しない、または温罨法（加温）しない

＊バイアスリスク，非直接性
　各ドメインの評価は「高（−2）」，「中／疑い（−1）」，「低（0）」の3 段階。
　まとめは「高（−2）」，「中（−1）」，「低（0）」の3 段階でエビデンス総体に反映させる。
＊＊上昇要因
　各項目の評価は「高（+2）」，「中（+1）」，「低（0）」の3 段階。
　まとめは「高（+2）」，「中（+1）」，「低（0）の3 段階でエビデンス総体に反映させる。
アウトカムごとに別紙にまとめる。

エビデンス総体

アウトカム	研究数	研究デザイン／	＊バイアスリスク	＊非一貫性	＊不精確性	＊非直接性	＊その他（出版バイアスなど）	＊上昇要因（観察研究）	リスク人数（アウトカム率） 対照群分母	対照群分子	（%）	介入群分母	介入群分子	（%）	効果指標（種類）	効果指標統合値	95%信頼区間	強さ ＊＊エビデンスの	＊＊＊重要性	コメント
漏出部位の炎症（皮膚炎・血管炎）の減少	症例報告・前後	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	61	20	32.8	NA	NA	NA	D（とても弱い）	8	
漏出部位の疼痛・灼熱感の減少	症例報告・前後	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	61	20	32.8	NA	NA	NA	D（とても弱い）	8	
症状回復までの日数	症例報告・前後	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	146	105	71.9	NA	NA	NA	D（とても弱い）	8	
皮膚損傷の減少	症例報告・前後	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	108	23	21.3	NA	NA	NA	D（とても弱い）	7	
組織の障害（潰瘍形成）の減少	症例報告・前後	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	128	2	1.6	NA	NA	NA	D（とても弱い）	7	
低温・高温による皮膚障害（熱傷）の発生	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	9	対象文献なし
炎症反応の増悪（悪化）	症例報告／3	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	3	3	100	NA	NA	NA	D（とても弱い）	7	

コメント（該当するセルに記入）